

平成27年度

北九州PCB廃棄物処理事業

視察報告書（概要）

【平成28年1月20日(水)～1月22日(金)】

北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議

■視察スケジュール及び内容 【平成28年1月20日(水)～1月22日(金)】

日程	内容	場所
1/20 (水)	北九州市環境局担当者との意見交換	北九州市役所 (北九州市小倉北区域内 1-1)
1/21 (木)	中間貯蔵・環境安全事業株式会社 北九州PCB処理事業所の視察	中間貯蔵・環境安全事業株式会社 北九州PCB処理事業所 (北九州市若松区響町 1-62-24)
	北九州市 環境・コミュニティセンター見学	北九州市 環境・コミュニティセンター (北九州市若松区本町 2丁目 9-4 明治町銀天街内)
	第35回北九州市PCB処理監視会議の傍聴	若松市民会館 (北九州市若松区本町 3丁目 13-1)
	北九州市PCB処理監視会議委員との意見交換 北九州PCB処理事業に関する市民説明会の傍聴	
1/22 (金)	光和精鋳株式会社戸畑製造所の視察	光和精鋳株式会社戸畑製造所 (北九州市戸畑区大字中原 46-93)

■視察参加者

北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議	
副委員長	吉田 英樹
委員	森川 卓也、時田 昭子、西畑 常夫、藤当 満、 橋本 忠雄、村上 孝志、山内 ふみ
随行者	
北海道環境生活部環境局循環型社会推進課廃棄物管理グループ 主幹 梶川 浩二	
室蘭市生活環境部環境課 主幹	弘瀬 圭嗣
業務受託コンサルタント	守屋 正、大橋 祐介

■対応者

北九州市環境局環境監視部PCB処理対策担当	
宮金 満 課長、野田 明 係長、西村 係長、奥田 主任	他
中間貯蔵・環境安全事業株式会社 北九州PCB処理事業所	
野村 義夫 安全対策課長、土田 哲司 総務課長	他
北九州市PCB処理監視会議委員	
浅岡 佐知夫 座長、大石 紀代子 委員、河合 一明 委員、嶋津 元彦 委員、 津田 潔 委員、成田 裕美子 委員、山口 隆広 委員	
光和精鋳株式会社 戸畑製造所	
平嶋 直樹 副社長、江頭 正彰 PCB事業推進部長、 中島 浩史 環境安全部長、河野 誠 環境安全部環境技術課長	他

## ■北海道及び北九州市のPCB廃棄物処理事業の概要

北海道及び北九州市のPCB廃棄物処理事業の概要について、以下に示す。

【北海道と北九州PCB廃棄物処理事業について】	
	北九州
	北九州市若松区
所在地	北九州市若松区
敷地面積	第1期 約24,000㎡ 第2期 約30,000㎡ 合計 約54,000㎡
建物概要	第1期 PCB処理棟・事務管理棟 鉄骨4階建22.1m 第2期 PCB処理棟・事務管理棟 鉄骨5階建36.4m
構造・高さ	第1期 6.293m 第2期 13.662m 合計 19.955m
建築面積	第1期 14,864㎡ 第2期 45,222㎡ 合計 60,086㎡
延床面積	第1期 高圧トランス・高圧コンデンサ (H16年12月稼働) 第2期 高圧トランス・高圧コンデンサ (H20年5月稼働)
処理対象物 (稼働日)	<p>■処理方式 前処理～洗浄法と真空加熱分離法の組合せ 液処理～脱塩素化分解法</p> <p>■PCB処理能力 1.0t/日 (PCB分解量)</p> <p>■処理方式 高圧コンデンサ ■処理方式 前処理～真空加熱分離法 液処理～脱塩素化分解法</p> <p>■PCB処理能力 0.5t/日 (PCB分解量)</p> <p>安定器等・汚染物 (H21年7月稼働)</p> <p>■処理方式 プラズマ溶融分解法</p> <p>■PCB処理能力 10.4t/日 (安定器等・汚染物量)</p>
処理対象地域	高圧トランス・高圧コンデンサ 17県 安定器等・汚染物 2府25県
	北海道
所在地	室蘭市仲町
敷地面積	当初施設 約40,000㎡ 増設施設 約12,600㎡ 合計 約52,600㎡
建物概要	当初施設 PCB処理棟・事務管理棟 鉄骨4階建29.9m 増設施設 PCB処理棟・事務管理棟 鉄骨6階建33.5m
構造・高さ	当初施設 11,165.72㎡ 増設施設 5,481.62㎡ 合計 16,647.34㎡
建築面積	当初施設 25,964.48㎡ 増設施設 17,246.45㎡ 合計 43,210.93㎡
延床面積	当初施設 高圧トランス・高圧コンデンサ (H20年5月稼働) 増設施設 高圧トランス・高圧コンデンサ (H25年9月稼働)
処理対象物 (稼働日)	<p>■処理方式 前処理～洗浄法と真空加熱分離法の組合せ 液処理～脱塩素化分解法</p> <p>■PCB処理能力 1.8t/日 (PCB分解量)</p> <p>増設施設 安定器等・汚染物 (安定器・小型電気機器、感圧複写紙、ウエス) (H25年9月稼働)</p> <p>■処理方式 プラズマ溶融分解法</p> <p>■PCB処理能力 12.2t/日 (PCB汚染物等重量)</p>
処理対象地域	高圧トランス・高圧コンデンサ 1道15県 安定器等・汚染物 1道1都18県

【北海道と北九州PCB廃棄物処理事業監視委員会等について】

	北海道	北九州
名称	北海道 PCB 廃棄物処理事業監視円卓会議	北九州市 PCB 処理監視会議
委員会構成	委員 15 名（以内） 委員～学識経験者 3 人、関係団体 7 人、公募 5 人、 近隣市町村（伊達市、登別市）、 オブザーバー（環境省、JESCO 等）、事務局 ※27.8.6 開催の第 35 回会議から委員改選 14 名（要綱では 15 名）	委員 12 名（以内） 委員～学識経験者等 5 人、 市民代表 7 人（市内市民団体からの推薦 2 人、公募 5 人） 顧問 4 人、環境事業団 1 人、行政機関 11 人 ※27.7.29 開催の第 34 回会議から委員 19 名（要綱では 20 名以内）
設置年月	平成 17 年 9 月 6 日（第 1 回会議）	平成 14 年 2 月 1 4 日（第 1 回会議）
設置目的	・PCB 廃棄物処理事業を監視し、道民、事業者、行政の信頼関係に 立脚した処理事業の推進を図ることを目的	・PCB 廃棄物処理事業の実施状況等を監視し、PCB 廃棄物の安全か つ早期の処理の推進を図ることを目的
監視事項	《監視事項》 ・PCB 廃棄物処理施設の整備や操業に関する事項の監視 ・PCB 廃棄物等の収集運搬、運行管理に関する事項の監視 ・PCB 処理事業における環境モニタリング、情報公開に関する事項 の監視 ・その他、安全の確保及び生活環境の保全に関する事項の監視 (要綱 27.2.2)	《監視事項》 ・PCB 廃棄物の処理の安全性確保に関する事項の監視 ・PCB 廃棄物の早期かつ計画的な処理の推進に関する事項の監視 ・地域の理解の促進に関する事項 ・その他、PCB 廃棄物の安全かつ早期の処理の推進に関する事項の 監視 (要綱 27.1.1)
会議状況 の公開	・会議資料、議事内容はホームページ等で公開 ・北海道 PCB 廃棄物処理事業監視円卓会議日より発行	・会議資料、議事内容はホームページ等で公開 ・北九州市 PCB 処理監視会議日より発行
活動内容	・委員会～平成 27 年 10 月まで 36 回開催 ・書類の閲覧、立ち入り、意見の提出 ・北九州事業の視察等	・委員会～平成 27 年 7 月まで 34 回開催 ・書類の閲覧、立ち入り、意見の提出 ・北海道事業の視察等
任期	2 年 再任可	2 年 再任可

【北海道と北九州PCB廃棄物処理事業の情報公開等の地域への対応について】

	北海道	北九州
施設内・外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→見学ルートを設定（主要な工程を安全に見学）</li> </ul> </li> <li>・PCB処理情報センター</li> <li>→リアルタイムで各工程の運転状況・モニタリングの状況表示</li> <li>・プレゼンテーションルーム</li> <li>→施設概要、処理の安全性等の情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→施設内の設備の一部を見学</li> <li>・作業状況表示モニター</li> <li>→施設内に設置したTVカメラからの映像をモニター</li> <li>・情報公開ルーム</li> <li>→PCB廃棄物処理に関する情報提供</li> <li>・プレゼンテーションルーム</li> <li>→施設概要、処理の安全性等の情報提供</li> </ul> </li> <li>・北九州市PCB処理監視委員会（住民等代表）</li> </ul>
監視委員会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議（住民等代表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市PCB処理監視委員会（住民等代表）</li> </ul>
情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→PCB廃棄物処理に関わる情報提供</li> </ul> </li> <li>・北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議だより                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→監視円卓会議の開催内容について紹介</li> </ul> </li> <li>・北海道PCB廃棄物処理事業報告会</li> <li>・北海道PCB廃棄物処理事業だより（JES00）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→PCB廃棄物処理状況、見学の状況等について情報提供</li> </ul> </li> <li>・日曜見学会の実施（JES00）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→27年4月から「PCB処理に関する情報サイト」</li> <li>PCB廃棄物処理に関わる情報提供</li> <li>・PCB処理だより</li> <li>→PCB廃棄物処理状況等について情報提供</li> <li>・北九州市環境・コミュニティセンター（若松区）</li> <li>→PCB処理の進捗・安全対策、地区の環境の取組みの情報提供</li> <li>・北九州市PCB処理事業に関する市民説明会</li> <li>→H27.1.19に第1回説明会</li> </ul> </li> </ul>



## ■視察内容

### 【北九州市環境局担当者との意見交換】〔1月20日（水）〕

北九州市役所 10 階 102 会議室において、北九州市環境局担当者との意見交換会を行いました。

意見交換会は「施設の安全操業及び地域住民の理解について」と「早期かつ計画的な処理の推進及び今後の展開について」の2つのテーマで意見交換を行いました。

なお、意見交換会の内容は、事前に提出した質問事項に回答してもらい、その後、追加質問に答えていただきました。

### 【意見交換概要】

施設の安全操業及び地域住民の理解について	
【 質 問 】	【 回 答 】
重大な有害物質の飛散・漏洩時で地域住民に被害が及ぶ場合の連絡方法、避難場所の確保について	<p>JESCO作成の『緊急措置手引書』にある緊急時の通報系統図に基づいて、処理施設で事故等があった場合には、処理施設から北九州市役所その他関係機関に対して緊急通報という形で連絡が入ります。その中に地元若松区役所も入っており、区役所から各自治会に連絡し、自治会の連絡網で避難を呼び掛けるという流れになっています。</p> <p>避難場所としては、市内の学校や公民館等を指定避難場所としています。避難の方法は、災害レベルによって変わり、自主避難、市の危機管理室からの避難勧告、避難指示等があります。その際は、市役所の広報車を使ってパトロール及びアナウンスをして回ります。</p>
町会との交流及び漁業者との交流について（特記すべき事項、トラブルの有無など）	<p>地元住民とはきめ細かな情報提供を常日頃から行っており、地元の行事や自治会のお祭り等には参加しています。またPCB処理操業状況について、地元を中心に年に複数回説明に伺っています。JESCOの職員も同様に行事への参加及び住民への説明も行っています。</p> <p>地元の漁業協同組合関係者には、監視会議の委員に入ってもらっています。また、市の職員は漁業関係者の行事にも参加しています。漁業権については、市の環境局という立場では直接的な話はなく、漁業を担当している部署から地元に対して理解を求めていくという形で、市全体で対応しています。</p>
市からの情報提供について	<p>1つ目は、北九州市役所全体のHPとは別にPCB専用のHPを平成27年4月より運用を開始しています。</p> <p>2つ目は、平成27年3月から若松地区の商店街の空き店舗を活用して、『北九州市 環境・コミュニティセンター』をPCB事業の情報発信拠点として開設しています。そこは、PCBの情報だけではなく</p>

	<p>く、広く北九州市の環境行政についての情報も発信し、また、地元の行事にも使ってもらい、憩いの場として活用してもらおう施設となっています。</p> <p>3つ目は、年に2回の監視会議後に、PCB処理だよりを発行し、若松地区内に全戸回覧、市内の公民館や市民センター等の公共施設に設置し、広く市民の方に情報を提供しています。</p>
PCBで取り組んできたリスクコミュニケーションの今後の市全体の環境行政への展開について	<p>今まで培ってきたノウハウやハード面の技術を日本国内のみならず、海外へ輸出していこうという取り組みが行われています。「低炭素社会の実現」を北九州市の大きな行政目標の一つに掲げており、自動車技術の海外輸出や環境プラントの東南アジア支援、その中でリスクコミュニケーションの重要性も併せて発信していくということに力を入れていきます。</p>
環境・コミュニティセンターの詳細について	<p>運営は市内のNPO法人に委託し、北九州市内の環境学習ボランティアに登録している人が交代で毎日2名常駐しています。PCBだけではなく、リサイクルや小中学生の環境学習に寄与できるようなエコ工作等も行っています。来場者数は、昨年3月から延6,000人を超えました。立地的に小学校の通学路になっているので、小学生が学校帰りに立ち寄ることが多いです。施設の運営に係る維持経費や電子機器の保守代、人件費等は、国の制度を活用しています。</p>
PCB処理の情報発信、啓蒙・啓発活動の具体例について	<p>従来は、北九州市役所で見学ツアーを実施し、自治会や地元の民生委員等を案内したり、市政だより等で募集しましたが、PCB処理施設だけではなかなか集まりませんでした。改善策として、エコタウンでのリサイクル行程の見学と西日本最大のビオトープの見学等を見学コースに入れ込んで、夏休み時期に開催したところ、40数名応募があり当日完売しました。この実績を踏まえ、今後活かしていきたいと考えています。</p> <p>また、今後はJESCO側も能動的に仕掛ける、情報発信するようになっていく必要があると思います。</p>
北九州市民のPCBに対する認識度について	<p>まちの成り立ちや今まで経験してきた公害に対する意識があり、北九州は歴史的にも環境に対する意識は高いと思っています。ただ、PCBは専門的なので、PM2.5等に比べると若干認知度も低いと思いますが、北九州市はカネミ油症事件に端を発しているので、他都市に比べては認識が高いと思います。</p>

早期かつ計画的な処理の推進及び今後の展開について

【 質 問 】	【 回 答 】
<p>掘り起し調査について、苦労したことや課題・問題点及び解決策、今後の計画等について</p>	<p>平成 20 年度から延 5 回に渡って高濃度 PCB の掘り起し調査を実施しました。可能性が低いと思われるところについても全てアンケート調査から始め、一次回答は 50% と非常に低かったです。基本的には調査会社やコンサルタントに委託し、追加の電話の督促まで実施しましたが、それ以降は市職員が現場に行き確認、指導しました。1 回で済まず、2 回 3 回と足を運んだこともあり、そこが一番大変でした。</p> <p>また、資金力が脆弱な中小零細事業者に対して最後はお金の問題が残りますが、全国的にも法的に定められていることなので、担当職員がお願いに何度も足を運びました。</p> <p>現在、色々な自治体から助成金制度についての要望が国にあがっていますが、処理の進捗に寄与する面と今まで真面目に処理をしてきた事業者に対する公平性の問題もあり、今後の国の動きに注意が必要だと考えています。</p> <p>今後北九州市では低濃度 PCB 処理を課題としており、PCB 処理計画では高濃度 PCB と同様に平成 33 年度の処理完了を目標に、今年度から低濃度 PCB の掘り起し調査に着手しています。今年度は、自家用電気工作物の設置者の市内で約 5,000 事業者アンケート調査を実施しており、現段階で 60% の回答率です。これは経済産業省から事業者のデータをもらって実施しています。来年度以降は市内の約 40,000 事業者にて 3 年かけて調査し、平成 30 年度末までに低濃度 PCB の量を把握し、残りの 3 年間で処理を完了する計画です。</p> <p>掘り起しマニュアルにおいては、国が作成したマニュアルでは安定器等が対象から漏れるので、北九州独自のマニュアルを用いて低圧のトランス・コンデンサ、安定器まで幅を持って調査しており、国の検討委員会でもマニュアルについて指摘をしています。</p>
<p>協力金制度について、概要と条例制定時の状況について（アンケート数、ご意見の内容など）</p>	<p>協力金制度を創設したのは、平成 27 年 4 月です。処理延長に伴い、輸送道路の維持補修費、その他の経費が新たに必要になり、地元行政だけの負担は厳しいため、PCB 処理関係者として排出事業者、輸送事業者、処理事業者に、広く薄くご協力をお願いしています。これは、あくまでも協力の要請で任意です。現在、多数協力してもらっており、協力業者・個人については HP にて掲載しています。集まった協力金については、輸送道路の維持補修費や掘り起しの経費等の PCB 事業に活用しています。</p> <p>この協力金制度の創設時に税制のことも検討はしましたが、税の仕組</p>



	<p>みはハードルが高いため結果には至っていません。今後、租税の減免措置等についても検討する必要があると考えていますが、単独地方自治体として財源的な問題もあるので、国の基金の活用等、環境省・経済産業省に更なるリーダーシップが必要であると思っています。</p>
<p>高濃度PCBの次に考えていることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微量PCB廃棄物処理について（協力金制度や助成制度等）</li> <li>・ポストPCB処理事業について（プラズマ溶融炉の活用等）</li> </ul>	<p>微量のPCB廃棄物処理についての協力金制度については、無害化処理認定を受けた事業者は、平成27年12月末現在、全国で27事業者となっており、民間同士のことであり、協力金をお願いする趣旨には合致していないため、今のところ考えていません。助成制度については、北九州独自のものはありませんが、福岡県で中小企業向けの制度があります。今までは、県の助成制度も高濃度PCBに限定していましたが、今年度から低濃度PCB処理についても対象が広がりました。ただし補助金という形ではありません。</p> <p>ポストPCB処理事業については、雇用の問題等、色々な意見があり、非常に難しい問題だと考えていますが、処理期限の前に国の方向性が出ると考えておりますので、それを踏まえて市民からの意見や議会等も含めて議論するものと考えていますが、現時点では不明です。</p>
<p>掘り起し調査における、経済産業省からのデータ入手について</p>	<p>使用中PCBの掘り起しのため、平成26年度に経済産業省からデータをいただきましたが、現状と合っていないため、活用できていない状況にあります。この問題について、環境省、経済産業省、電気保安関係団体、自治体で協力体制の必要性が認識され、事業者のデータのやりとりや情報交換等がスムーズになりました。</p>
<p>製造企業の調査への関与の有無について</p>	<p>高濃度PCBについてはある程度判明していると言われていますが、低濃度PCBについては、混入の原因すら特定されていない状況です。しかし、製造事業者の製造責任というのは絶対にあると考えています。事業者でも中小零細事業者等はあまり認識を持っていないところはたくさんあるので、政府広報も含めて力を入れてやっていくべきだと国に対して指摘しています。現在、環境省は今後追加的な方策という事で法改正にも動いています。</p>
<p>掘り起し調査の徹底調査について</p>	<p>掘り起し調査についての蓄積したノウハウを他の自治体に講演等で出向いて説明しており、各自治体に当事者意識を持ってもらうことが必要です。また、対象エリアの自治体に対して、市長名で協力要請文を送り、処理期限を明記し、全自治体から協力の回答をもらっています。</p>



【意見交換状況】



【意見交換状況】

【中間貯蔵・環境安全事業株式会社 北九州 PCB 処理事業所 視察】〔1月21日(木)〕

最初に第1期施設内のプレゼンテーションルームにおいて、DVD等により施設の概要や処理工程について説明していただいた後、第1期施設及び第2期施設の見学通路と第1期施設内の情報公開ルームの見学を行いました。見学後、プレゼンテーションルームに戻り、事前に提出していた質問事項について、説明していただきました。

【 質 問 】	【 回 答 】
離島からPCB廃棄物処理のため運搬する場合、密閉容器に収納できないケースの有無とその措置について	沖縄からの大型トランス搬入で2件あり、漏れ防止型金属トレイを使用して、カーフェリーに乗せて搬入しました。その際トランスは抜油して運搬し、抜油した油は別容器に入れて運搬しました。なお、貨物船での運搬は密閉容器に入れての運搬のみで、上記の場合は運搬不可です。
処理施設から大気中に出るPCB等の年間の総量について	排ガス測定はしていますが、総量の評価は行っていません。排ガス中のPCB濃度は、平成24年から26年までの3年間の測定で北九州市との協定値を下回りました。
ベンゼンの基準値超過での、PCB類がオーバーしていない理由について	今回ベンゼンが検出されたのが、固形物充填槽排気部分であり、反応槽でPCBを無害化処理した後処理の工程であったため、PCBは検出されませんでした。



【施設全景】



【説明状況】



【施設見学状況】



【情報公開ルーム見学状況】

【北九州市 環境・コミュニティセンター見学】〔1月21日（木）〕

北九州市の環境分野の情報の発信や地域活動の拠点として、平成 27 年の 3 月に若松区本町の明治町銀天街内に開設された施設です。センターは PCB 処理情報、若松区響灘地区における環境の取組みなどの情報に触れる場として、また、イベントやセミナーといった地域活動の場として活用できる施設となっています。



【センター外観】



【センター外観】



【センター見学状況】



【モニターによる情報発信】

【第 35 回 北九州市 PCB 処理監視会議の傍聴】〔1月21日（木）〕

若松市民会館において開催された「第 35 回北九州市 PCB 処理監視会議」を傍聴しました。

■会議次第

- 1.北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について
- 2.豊田 PCB 処理事業視察実施結果について
- 3.ベンゼン濃度の協定値超過について
- 4.今後の安全かつ早期の処理完了に向けた取り組みについて



【監視会議傍聴状況】



【北九州市PCB処理監視会議委員との意見交換】〔1月21日（木）〕

若松市民会館 2 階 第 2 集会室において、北九州市PCB処理監視会議委員との意見交換会を行いました。内容は「早期かつ計画的な処理の推進及び今後の展開について」と「地域住民の理解について」の 2 つのテーマで意見交換を行いました。

【意見交換概要】

早期かつ計画的な処理の推進及び今後の展開について	
【 質 問 】	【 回 答 】
「PCB 機器の掘り起こし調査」について、北九州の会議の中で出された議論や意見について	<p>平成 20 年度から延 5 回に渡って高濃度 PCB の掘り起こし調査を実施し、全国に先立って把握に努めました。</p> <p>掘り起こしマニュアルにおいては、国が作成したマニュアルでは安定器等が対象から漏れるので、北九州独自のマニュアルを用いて低圧のトランス・コンデンサ、安定器まで幅を持って調査しており、網羅的に北九州市内にある事業所全てに対してアンケート調査から始め、一次回答は 50% と非常に低かったです。追加の電話の督促等の追加調査をしましたが、最終的には市職員が督促に行き立入りを行いました。</p> <p>助成金制度については、北九州市はそれほど肯定的ではありません。今まで真面目に処理をしてきた事業者に対する公平性の問題もあり、慎重にやるべきだと考えています。それは、助成金だけではなく処理費の値下げもすべきではないという考えがあり、北九州事業エリアにおいては、平成 29 年度から処理費用が上がります。JESCO から告知しており、処理の先延ばしは許さないという考えです。</p>

地域住民の理解について	
【 質 問 】	【 回 答 】
監視会議内での工夫について (説明の工夫、グラフやイラストを使うなどの工夫)	<p>最初はプロジェクターを使っていましたが、見づらい面があったため、現在はスライドの印刷物という形で行っています。</p> <p>会議内容が、重要な案件がある場合や専門的な問題がある時は、市職員が各監視会議委員に事前説明に行っています。後は、自分で勉強し、わからない場合はメール等で質問するなど、監視会議委員としての自覚を持って、知識を蓄積するよう努力しています。</p> <p>また、会議では市民公募委員が理解できる説明が必要なので、市民公募委員の発言を優先しています。ただし、技術的なポイントに関しては、学識経験者が責任を持って発言しています。</p>



<p>リスクコミュニケーションについて</p>	<p>今回のベンゼンの件については、蓄積性がないこと、PCBやダイオキシンと違うことなど、明白に区別して説明しないと、地元の報道のように不安だけ煽り、風評被害等を引き起こしてしまうので、十分注意しなければなりません。</p> <p>現実問題として、様々な立場の人がおり、今後もリスクコミュニケーションの重要性を考えていかなければなりません。</p>
-------------------------	--

その他	
【 質 問 】	【 回 答 】
<p>監視会議のありかたについて</p>	<p>本来は JESCO の事業検討委員会及び事業部会でチェックすべき内容が、監視会議に押し付けられているように思われ、本来はそこでもっと議論されるべきだと思っています。</p> <p>監視会議の位置づけは市の機能の補完と考えています。市民と市とのパイプの手段、コミュニケーションの手段として、市民の声を代弁しているという機関と考えています。</p>



【意見交換状況】



【意見交換状況】

【北九州 PCB 処理事業に関する市民説明会の傍聴】〔1月21日（木）〕

若松市民会館において開催された市民説明会を傍聴しました。

市民説明会では、「ベンゼン濃度の協定値超過」及び「今後の安全かつ早期の処理完了に向けた取り組み」について、環境省、北九州市、JESCO 北九州事業所の職員から説明があり、市民からの意見に対し返答する内容で実施されました。

■会議次第

- 1.北九州PCB廃棄物処理施設の操業状況等について
- 2.ベンゼン濃度の協定値超過について
- 3.今後の安全かつ早期の処理完了に向けた取り組みについて
- 4.質疑応答



【市民説明会傍聴状況】

【光和精鉛株式会社戸畑製造所の視察】〔1月22日（金）〕

最初に戸畑製造所事務所内の会議室において、会社概要及び低濃度PCB無害化処理についての説明を受けた後、前処理施設、保管施設、ロータリーキルン等を見学しました。

施設見学後、会議室に戻り、質問に答えさせていただきました。



【説明状況】